2016年11月19日（土）　インド大使館　ウパニシャッド（第12回）

≪⑰句の説明≫

前回の続きから始めます。⑰句を見てください。［マハラジと皆が一緒に朗誦］

　⑰　yathā saumya ekena mṛtpiṇḍena

　　（ヤター　ソウミャ　エーケーナ　ムリットピンデーナ）

　　　sarvam mṛnmayam vijñatam syāt

　　（サルヴァㇺ　ムリンマヤㇺ　ヴィギャータㇺ　スヤート）

　　　vācārambhaṇam vikāro nāmadheyam

　　（ヴァーチャラㇺバナㇺ　ヴィカーロー　ナーマデーヤㇺ）

　　　mṛttikā ityeva satyam

　　（ムリッティカー　イティエーヴァ　サッティヤㇺ）

この句の意味は「ウパニシャッド」（日本ヴェーダーンタ協会発行、第２刷）のp.137、9～11行に記載されている通りです。「*一塊の粘土を知ることによって、粘土で作られたあらゆる物が知られる*」とあります。どうしてわかるのでしょか。

の例が後に出ていますのでそれで説明します。例えば、一塊の金で作られた物をよく知っていれば、金で作られたすべての物を理解することができます。金で作られた物には、例えば、首飾り、ネックレス、イヤリング（耳飾り）、ノーズリング（鼻飾り）があります。これらはすべて金で作られていますけれども、或る飾りと別の飾りとの違いはどこにあるのでしょうか。

違いは「名前」と「形」ですね。**名前と形を取り除きますと何が残っていますか。です**。我々は名前と形で違いを説明します。別の方法はないですね。

さて、名前は「音」ではないですか。名前の基礎を考えますとそれは音ではないですか。音以外に名前はないですね。例えば、本。これは音ではないですか。音はどこから出ていますか。のどから出ています。のどから出ているものはすべて音ではないですか。本、人、女性、男性、神様、イヤリング、ネックレス、すべて音ではないですか。名前と言っていますがもう少し源に行きますと名前は「音」に他ならないです。名前は本当は「音」です。

名前と形。名前も形もたくさんあります。例えば、ネックレス、イヤリング、ノーズリング、みな名前も違いますし形も違います。

⑰句を見てください。ekena（エーケーナ）が「一つの」、mṛt（ムリット）が「粘土」、piṇḍ（ピンド）が「塊」です。sarvam（サルヴァㇺ）が「すべての」、mṛnmayam（ムリンマヤㇺ）が「粘土で作られた」、vijñatam（ヴィギャータㇺ）が「理解することができる」、「知ることができる」です。

vācārambhaṇam（ヴァーチャーラム）は「言葉」です。言葉だけが違います。粘土で作られた物ですが、例えば、お皿、グラスというように別々です。vikāro（ヴィカーロ―）は「いろいろな形（different form）」です。nāmadheyam（ナーマデーヤㇺ）は「名前」です。**名前と形は別々ですけれども、「真理」（satyam（サッティヤㇺ））は粘土（mṛttikā）です。**どうして粘土が「真理」なのでしょうか。なぜならば、**名前と形は一時的なものです。**現れて消えます。始まって終わります。

例えば、で作られた飾りを考えてください。金のネックレスはどこから来たのでしょうか。金から来ました。女性は、同じ金を使って別の種類の飾りを着けたいという考えがあります。私の姉はたくさんの金の飾りを持っていましたが、結婚の５～６年後に金の飾りのカタログの中から好きなデザインのネックレスを見つけました。そして、金細工師のところへ行ってそれを注文してください（持っている金のネックレスから作り変えてほしい）と私に頼みました。

しかし、持っている金のネックレスとは全然違うデザインのものにしたいのでこのままではできないです。どうしますか。最初は、金の飾り（ネックレス）を熱して溶かします。**溶かしてしまうと金の飾りの名前と形の両方がなくなります。**その状態ではネックレスとは言わないですね。その状態のものは金の塊です。

そのネックレスはネックレスに作られる前にも金の塊でした。今溶かされてまた金の塊になりました。**真ん中の状態がネックレスという名前と形です。**そのことを考えれば、名前と形は一時的ではないですか。

ネックレスもイヤリングも「真理」ではありません。「真理」は金です。なぜならば、前の状態も金、最終的な状態も金であり、ネックレス、イヤリング、ノーズリングはいずれも真ん中の状態だからです。

宇宙の中には生き物と物があります。すべての生き物、すべての物が宇宙ですね。それらは何から作られていますか。「意識」から作られています。それらは「意識」から来ています。それでは「意識」とは何でしょうか。

全体的な「意識」はブラフマンです。絶対的な真理、絶対的な存在がブラフマンであり、ブラフマンの本性は「意識」です。偉大なレベルで「意識」をブラフマンと言います。そのブラフマンの「意識」から宇宙のすべてのものは作られました。

最初の状態（基礎）はブラフマンです。ブラフマンはすべての物、すべての生き物の中に入っています。別の言い方をすれば、**すべての物とすべての生き物はブラフマンの「意識」で作られています。「意識」は基礎です。**

すべての物、すべての生き物の状態は変化していないですか。変化していますね。それらは始まります、衰えています、それから変化しています、最後はなくなります。始まります、育ちます、それから変化しています、なくなります。このようにいつも変化します。

すべての物、すべての生き物は変化していますけれども変化していないものは何ですか。**「基礎」は変化していないです。ブラフマンは変化していません。**ブラフマンから出てまたブラフマンに戻ります。ブラフマンから出てまたブラフマンに入ります。**真ん中の状態は一時的な状態です。真ん中の状態は名前と形です。**

例えば、人間、動物があります。そして人間の中にもアメリカ人、インド人、日本人があり、日本人の中にも女性、男性があり、女性、男性の中にも佐藤さん、鈴木さんがあります。みな形と名前が違います。女性、男性、若者、お年寄、日本人、インド人、建物、車がありますが、**すべての名前と形は一時的です。**金の飾りと同じようです。それは変化します。ウパニシャッドはそのことを理解してください、覚えてください、と言っています。

我々（普通の人）は一時的なものが永遠であるといつも誤解しています。誤解して執着して困っています。しかし、すべての生き物とすべての物は一時的なものです。それらの**「基礎」は永遠です。**そのことを我々は理解していないです。理解しても覚えていないですし、思い出さないです。

すべての物、すべての生き物は変化しますが、**変化するものの「基礎」（ベース）は変化しない**、とウパニシャッドは言っています。それはブラフマンです。そしてブラフマンは個々別々のものではなく一つのものです。そのことをいつも理解して覚えていてください。それが「真理」だからです。

皆さんは、人や物が好きになってそれが永遠に続くと考えていませんか。例えば、私と私の家族との関係は永遠であると考えていますね。また、私の住んでいる建物は永遠であり私はその建物にずっと住むと考えて執着になっています。しかし、それは必ず変化します。変化しないものが何かを理解してください。それを集中して考えてください。

そうしないとあなたは無知の状態です。このクラスの初めに唱えるマントラは何ですか。

　『**無知の暗闇から知識の光へ導いてください**』

すべての生き物、すべての物が永遠であるかのように考えることが無知です。永遠なのはその物の「基礎」です。すべての生き物、すべての物は「真理」の一時的な現れに過ぎません。

しかし、すべての物、すべての生き物はブラフマンで作られていますからそのものに執着して何が問題ですか、とあなたは考えるかもしれません。ブラフマン以外には何もないのですから、自分の奥さん、旦那さん、息子、娘に執着してもそれはブラフマンに執着することと同じですから、何が問題ですか、という議論もできます。

しかし、どうしてそうしない方がいいとウパニシャッドは言っていますか。**ブラフマンの一時的な現れを「永遠」と考えるのが間違い**だからです。現れているものは絶対にブラフマンです。ブラフマン以外ないですから。しかし、それはブラフマンの一時的な現れに過ぎません。一時的な現れのことをずっと考えますとそれが執着になります。

**ブラフマンは永遠なものです。**一時的な現れではありません。本当のブラフマン（真理）のことをずっと考えますとそれが「真理」の瞑想になります。ブラフマンの一時的な現れを好きになってそれに執着しますとその結果で苦しみ、悲しみが生じます。**本当のブラフマンを本当に好きになりますとその結果であなたは幸せになります。**

名前と形のいろいろな種類がこの宇宙です。そのことを考えて分析して識別して理解してください。いろいろな物がありますけれども分析しますと基礎的なものは２つだけです。名前と形です。そしてさらにもっと分析していきますと**名前と形の中に一つのものだけがあります。それがブラフマンです。**

≪ウパニシャッドからの引用句の総括≫

今までウパニシャッドからの引用句を説明してきましたが、今日はそのまとめをします。

最初は、宇宙、生き物（例えば、ジーヴァ（人間））、ブラフマンについて説明しました。**すべてのものは変化しています**。例えば、人間は生まれます、育ちます、衰えています、変化しています、それで亡くなります。それが一つの変化の説明です。すべてのものは変化していますが**変化していないもの**はありますか。あります。**それはブラフマンです。「真理」です。**

次に、**すべてのものは一時的です**、**時間で限定されたものです**、と説明しました。「時間で限定された」の意味は、例えば、或るものが、未来にあり過去にもありましたけれど今はありません、また、今ありますけれど未来にはなくなります、また、過去にはなかったですけれど今はあり未来にありません、また、過去にもなかったですし今もないですが未来にはあります。それが「時間で限定された」ものです。すべてのものは時間で限定されたものです。しかし、**時間で限定されたものではないもの**はあるでしょうか。あります。**それはブラフマンです。ブラフマンは「永遠」です。**

次に、**すべてのものは場所、空間で限定されたものです**、と説明しました。例えば、私は今この場所にいますけれども逗子にはいないです。もちろんインドにもいません。私の存在は場所、空間で限定されたものですね。すべての生き物はそうではないですか。例えば、海はとても大きいですけれども、それも空間で限定されたものです。なぜならば、海岸がありますから。しかし、**空間で限定されたものではない一つのもの**があります。**それがブラフマンです。なぜなら、ブラフマンは「無限」だからです。**

それから、**すべてのものは相対的（relative）です**、と説明しました。例えば、あなたの考え、心の考えは絶対的ではないでしょう。自分が子どものときの心の状態、考えと、若いときの心の状態、考えと、年を取ってからの心の状態、考えとは同じですか。同じではないですね。このように心の考えは相対的です。

そして、あなたは考えが毎日同じということはないですね。例えば、よく寝られなかったら朝起きたときに爽快ではないですね。よく寝ますと朝爽快です。また、例えば、あなたはもし友達とけんかしますとあまり気持ちがよくないです。そうでないときにはけっこう愛の可能性があり、そのときは気持ちがいいです。同じ心であるのにどれくらい違う考えになっていますか。それが相対的であるということです。

或るときにはこれを好きですが別のときにはそれを好きになりません。そういうことはありませんか。同じ心ですけれども、心の考えはとても相対的であり、絶対的ではありません。しかし、**一つのものはいつも「絶対的」です。それがブラフマンです。**

それから、生き物には意識があり、知性があり、感覚があり、心があります。それらの基礎は何ですか。**「基礎」はブラフマンです。**

我々はたくさんのものを見ていますけれどもみな別々に見えますね。例えば、人と人、人と物、物と物、人と物と神、神と神。別々にたくさん見えます。見ているものの中に統一はあるでしょうか。「**多様の中の統一**」（unity in diversity）はありますか。あります。**それがブラフマンです。**

それから、我々はいつも物について２つの状態を見ています。一つは粗大な（gross）状態、もう一つは精妙な（subtle）状態です。例えば、身体は粗大であり、心は精妙です。しかし、粗大と精妙を**「超越」している状態**があります。**それがブラフマンです。**

我々には、目覚めた状態と、夢を見ている状態と、夢を見ない深い睡眠の状態があります。それ以外にもう一つの状態があります。その状態が**超越の状態（トゥリーヤ）**です。その状態はブラフマンの状態です。

それから、一つのものを理解すればすべてのものを理解することができるものがありますか。先ほどの⑰句に、一塊の粘土を理解すれば粘土で作られたすべての物を理解することができる、とありました。それでは、**そのものを理解すればすべてのものを理解することができるもの**がありますか。それはあります。**それがブラフマンです。**

普通の喜び、普通の楽しみは現れて消えます。一時的なものです。それだけでなく時々反動（reaction）もあります。普通の楽しみは感覚的、心的、知性的です。肉体的な喜び、感覚的な喜び、心的な喜び、知性的な喜びです。

例えば、あなたはたくさん食べます、それが肉体的な楽しみです。例えば、とても暑いときに涼しい風が流れていると気持ちがいいです。それも肉体的です。例えば、あなたはとても美しい音楽を聴いて、映画を見てあなたは喜んでいます。それが感覚的な楽しみです。

あなたは人を愛します。例えば、お母さん、息子、旦那さん、奥さん、友達を愛します。それは心のレベルでの喜びです。難しい数学の問題（mathematical problem）が解けたときの喜び、科学的な発見の喜びは、知性的な喜びです。

しかしこれらの**すべての種類の喜び（肉体的、感覚的、心的、知性的）は現れては消えます。**安定していません。**一つだけ安定した喜び、至福があります。それがブラフマンの至福、真理の至福です。**

先ほどの⑰句には、一塊の粘土をよく知っていれば粘土で作られたすべての物を理解することができる、とありますが、一塊の粘土の何を知るのでしょうか。例えば、その粘土の塊の中に何が入っていますか。

例えば、原子（物質を構成する最小の粒子）です。原子は電子（electron）、陽子（proton）、中性子（neutron）からなります。粘土よりがわかりやすいので金を例に考えます。金の原子を構成する電子、陽子、中性子の数（すなわち、金の原子構造）がわかれば、金で作られた物すべてを理解することができます。それが科学的な考えです。

一塊の粘土からほかにどのようなことがわかりますか。一塊の粘土はどこから出ましたか。今の状態は何ですか。いろいろな形になることができますが最終的にどのような状態になるのでしょうか。

哲学の見方で粘土の中にはブラフマンがあります。宇宙にはブラフマン以外何もないですから粘土の中にはブラフマンがあります。では、粘土の中にどのようにブラフマンがあるのでしょうか。

ブラフマンは５つの要素ですべての物、すべての生き物を作りました。５つの要素はkshiti（土）、ap（水）、teja（火）、marut（空気）、vyoma（アーカーシャ）です。vyomaは例えば空（sky）、marutは例えば風、tejaは火、apは水、そしてkshitiは土です。それらを或る割合で混ぜてすべての物、すべての生き物が作られています。

その**５つの要素はブラフマンの中から出ています。**それが「**非二元論」**的な考えです。「二元論」的な考えでは宇宙（すべての物、すべての生き物）と神は違います。しかし**ヴェーダーンタ**の考え（「非二元論」的）はそうではありません。ブラフマンは自分から、自分の力で、マーヤーの力の影響で、中から出しています。

例えば、前にクモの巣の説明がありましたね（ウパニシャッド講話-6参照）。クモの巣を見たことはありますね、自分の家にありますから（笑い）。鳥も巣を作りますが鳥はあちらこちらから（外部から）材料を持ってきて巣を作っています。しかし、クモだけは例外です。クモは自分の中から巣の材料を出して巣を作っています。

ブラフマンも同じです。**自分の中から５つの要素を出して宇宙を作っています。**そのことを考えれば、粘土も同じ要素で作られました。外からは粘土に見えますが本当はブラフマンです。しかし、一塊の粘土に集中（フォーカス）しないとその真理は理解できないです

浅い見方ではそのような理解はできません。理解するためには、一つのものだけに集中してください。それが瞑想の対象です。瞑想して聖者はどのようにしてそのことをわかったのでしょうか。聖者は一つのもの、例えば、一塊の粘土を瞑想します。瞑想の意味は集中（フォーカス）ですね。集中して考えることです。

聖者は集中して考えて結論を得ました。どのような結論でしょうか。**粘土から作られた物は一時的な状態です。基礎はブラフマンです。ブラフマンの一時的な現れが粘土から作られた物です。ブラフマンから来てまたブラフマンに戻ります。**

ブラフマンに戻るのは「破壊」のときです。「破壊」の意味は何ですか。一つのものからたくさんの物が出ていますがその**たくさんの物がまた一つのものに戻るということが「破壊」の意味です。「破壊」の意味は無くなるということではなく、「戻る」ということです。**

インド哲学の考えで、神様は「創造」、「維持」、「破壊」をしています。「創造」は別の場所から物を持ってきて作るのではありません。ブラフマンは**自分の中からそれを出しています。**出してたくさんの生き物、物になります。それが「創造」です。そして創造したものの中に存在しています。それが「維持」です。「破壊」はまた一つのもの（ブラフマン）に戻ることです（ウパニシャッド講話-6、-8参照）。

創造、維持、破壊についてまとめます。

①創造　自分の中から出してたくさんのものを作る：One → Many（One to Many）

②維持　その状態が続く

③破壊　たくさんのものから一つのものに戻る：Many → One（Many to One）

「One to Many、Many to One、・・・」、その感じでずっと続きます。科学者の考えでは、或るときこの宇宙がビッグバンによって始まりました。インド哲学の考えでは、それは非論理的です。インド哲学の考えでは宇宙は始まりません。創造・維持・破壊というプロセス（下図で矢印一つ分）がサイクルになって続いていきます。そのことを考えれば始まりもなく終わりもありません。

哲学者の見方では、粘土で作られた物（名前と形）は一時的です。それは粘土（真理）の一時的な現れに過ぎません。そのことを理解しますと「真理」のことを理解することができます。粘土で作られたすべての物を理解することができます。

≪Nirvishesha、Nirguna、NirupādhikaブラフマンとSavishesha、Saguna、Sopadhikaブラフマン≫

今までの講話でウパニシャッドの句をいろいろ引用してブラフマンについて説明してきました。しかし、ブラフマンの本性について少し混乱が出ていると思います。それは、或る句の中ではブラフマンには性質も形もないと言っていますが、別の句ではブラフマンには形もある性質もあると記述しているからです。それで混乱が出ています。

何が正しいのでしょうか。ウパニシャッドの中にはブラフマンのいろいろなイメージが出ています。ブラフマンの本性（nature of Brahman）について、Nirvishesha（ニルヴィシェーシャ）、Nirguna（ニルグナ）、Nirupādhika（ニルパーディカ）というイメージがあります。

Brahmanの本性

① Nirvishesha（ニルヴィシェーシャ）

 Nirguna（ニルグナ）

② Nirupādhika（ニルパーディカ）

Nirvishesha（ニルヴィシェーシャ）は、「**性質的な特徴はない**」ということです。例えば、ブラフマンは粗大的（gross）でもなく精妙（subtle）でもない。例えば、短くもなく長くもない。それから浅くもなく深くもない。重くもなく軽くもない。そのような性質は何もない。それから新しくもなく古くもない。純粋でもなく不純でもない。それから一部分でもなく全部でもない。それから働いているのでもなく働いていないのでもない。それから冷たくもなく熱くもない。それから美しいのでもなく美しくないのでもない。そのような類の性質的な特徴はブラフマンにはないということです。

Nirguna（ニルグナ）も同じで「性質が何もない」ことを意味しています。Nirupādhika（ニルパーディカ）は「**限定されたものではない**」という意味です。時間・空間で限定されたものではないということです。

ブラフマンは創造もしていません、維持もしていません、破壊もしていません。ブラフマンが「純粋な意識」であることを考えればブラフマンは何もしていません。個人的なレベルのアートマンを考えれば、身体もなく、心もありません。純粋なアートマン（魂）は歩きません、考えません、食べません。それは何もしていません。本当は身体が歩いています、目が見ています。純粋なアートマンはその中にありますけれども**傍観者**のようで**自分では何もしない**です。そのこともNirupādhika（ニルパーディカ）です

ブラフマンの本性は**サット・チット・アーナンダ（Sat-Chit-Ānanda）**です。ブラフマンは**「絶対の存在」、「絶対の知識」、「絶対の至福」**です。ブラフマンは何らの性質もなく限定されたものでもないですけれども、その本性（サット・チット・アーナンダ）を持っています。それは矛盾ではないです。

ウパニシャッドの或る種類の句の中にはブラフマンのNirvishesha（ニルヴィシェーシャ）、Nirguna（ニルグナ）、Nirupādhika（ニルパーディカ）のイメージが出ていますが、ウパニシャッドの別の句の中にはブラフマンについて別のイメージが出ています。ブラフマンには性質的な特徴があり、時間と空間で限定されているというイメージが出ています。それがSavishesha（サヴィシェーシャ）、Saguna（サグナ）、Sopadhika（ソパディカ）です。

① Savishesha（サヴィシェーシャ）

　 Saguna（サグナ）

② Sopadhika（ソパディカ）

例えば、ブラフマンは宇宙になります。宇宙になっている状態のブラフマンはSavishesha（サヴィシェーシャ）、Saguna（サグナ）、Sopadhika（ソパディカ）です。宇宙になっていない状態のブラフマンはNirvishesha（ニルヴィシェーシャ）、Nirguna（ニルグナ）、Nirupādhika（ニルパーディカ）です。

しかし、ブラフマンは二つありますか。いいえ、**ブラフマンは一つです。**それで大きな混乱があります。しかし、Nirvishesha、Savishesha、Nirgunaと、Saguna、Nirupādhika、Sopadhikaとはまるで反対みたいですけれども、その２種類は別々の存在ですか。いいえ、別々の存在ではありません。

ラーマクリシュナの福音の中に一つの例があります。或る人に寝ている状態、歩いている状態、働いている状態があります。同じ人が寝ています、働いています。例えば、佐藤さんが寝ています、働いています。別々の佐藤さんですか。それぞれで佐藤さんは別の人になりますか。いいえ、同じ佐藤さんです。同じ佐藤さんがその両方をすることができます。

同じ存在ですが、働いていない、創造していない、維持をしていないブラフマンの状態はNirvishesha、Nirguna、Nirupādhikaです。創造が始まりました、維持が始まりました、そのブラフマンの状態はSavishesha、Saguna、Sopadhikaです。

同じ人が寝ています、働いています。どうですか、イメージすることができましたか。理解できましたか。**同じ人の二つの状態です。**

ウパニシャッドの中では両方説明されています。例えば、ブラフマンは何もしていない、何も性質がない。ブラフマンは何も変化していない、維持もしていない。そのときのブラフマンをスッダー・ブラフマン（Suddha Brahman）、純粋なブラフマンと言っています。

個人的なレベルでアートマンにフォーカスしますと、「魂」は何もしていません。傍観者です。ですけれども、我々はアートマンがないと何もできません。アートマンの存在がなかったら働きもできないし、話もできないし、動くもできません。そのことを考えれば、魂についてムービング（動き）、アクション（行為）のイメージが出ますね。

個人的なレベルでも同じように二つの状態があります。無知がある間、魂自分を感覚の働き、知性の働き、心の働きと同一視（identification）しています。同一視しますとアートマンの状態はSavishesha（サヴィシェーシャ）、Saguna（サグナ）、Sopadhika（ソパディカ）になります。

サマーディに入りますとそれを同一視しません。サマーディの状態は無知がなくなり悟った状態です。そのときに、私の魂はNirvishesha（ニルヴィシェーシャ）、Nirguna（ニルグナ）、Nirupādhika（ニルパーディカ）であることを本当に理解することができます。

個人的なレベルでそのことをイメージしてください。サマーディに入りますとそのときは魂だけです。魂と身体や感覚との関係はなくなり無関係の状態に入ります。無関係の状態に入りますとそのとき個人的な魂はNirvishesha、Nirguna、Nirupādhikaであり、スッダー・アートマン（Suddha Ātman）、純粋なアートマン、純粋な魂です。

サマーディから戻りますと、また感覚、心、身体と魂との関係は始まります。始まりますとSavishesha、Saguna、Sopadhikaになります。同じ人が目覚めてまた働いている状態です。サマーディの状態は寝ている状態であり、働きの状態はサマーディから戻った普通の状態です。サマーディの状態がありますと本当の知識の状態になります。働きの状態は無知の状態です。

そしてウパニシャッドの中にその種類が両方あります。例えば、⑪句（ウパニシャッド講話-7参照）を見てください。［マハラジと皆が一緒に朗誦］

⑪　sarvataḥ pāṇipādam tat sarvatokṣi śiromukham

　（サルヴァタㇵ パーニパーダム タット　サルヴァトークシ　シロームッカㇺ）

　　sarvataḥ śrutimalloke sarvamāvṛtya tiṣṭhati

　（サルヴァタㇵ シュルティマローケー サルヴァマーブリッティヤ ティシュタティ）

句の意味は「すべての足、すべての手、すべての眼、すべての顔、すべての耳はブラフマンの足、手、眼、顔、耳」です。ブラフマン以外何もないですから。そのことを考えればブラフマンのどのようなイメージが出ますか。Savishesha（サヴィシェーシャ）、Saguna（サグナ）、Sopadhika（ソパディカ）のイメージが出ます。ブラフマンが宇宙になりました　そのイメージが出ます。

次に⑯句（ウパニシャッド講話-11参照）を見てください。［マハラジと皆が一緒に朗誦］

　⑯　tvam strī tvam pumānasi tvam kumāra uta

　　（トゥヴァㇺ　ストゥリー　トゥヴァㇺ　プマーナシ　トゥヴァㇺ　クマーラ　ウタ）

　　　vā kumārī tvam jīrṇo daṇḍena vañcasi

　　（ヴァー　クマーリー　トゥヴァㇺ　ジールノー　ダンデーナ　ヴァンチャシ）

　　　tvam jāto bhabasi viśvato mukhaḥ

　　（トゥヴァㇺ　ジャートー　バヴァシ　ヴィシュヴァトー　ムッカㇵ）

句の意味は「あなたはすべての女性であり、あなたはすべての男性であり、あなたは若い女性であり、あなたは若い男性であり、年取った人もあなたであり、あなた以外何もありません」です。この句からブラフマンのどのようなイメージが出ますか。Savishesha、Saguna、Sopadhikaです。わかりますね。ブラフマンは宇宙になっています。

それから⑮句（ウパニシャッド講話-9、10参照）を見てください。［マハラジと皆が一緒に朗誦］

⑮　etad vaitad akṣaram

　　（エータッド　ヴァイタッド　アクシャラㇺ）

　　　gārgī brāhmaṇa abhivadanti

　　（ガールギー　ブラーフマナ　アビヴァダンティ）

　　　asthūlam ananuḥ ahrasvadīrgham

　　（アストゥーラㇺ　アナヌㇷ　アㇷラスヴァディールガム）

　　　alohitam asneham achhāyam

　　（アローヒタㇺ　アスネーハㇺ　アッチャーヤㇺ）

　　　atamaha-vāyu anākāśam asaṅgam

　　（アタマーハ－ヴァーユ　アナーカーシャㇺ　アサンガㇺ）

　　　arasam agandham acakṣuskam

　　（アラサㇺ　アガンダㇺ　アチャクシュシュカㇺ）

　　　aśrotram avāk amano

　　（アシュロートラㇺ　アヴァーク　アマノー）

　　　atejaskam aprāṇam amukham

　　（アテージャスカㇺ　アプラーナㇺ　アムッカㇺ）

　　　amātram anantara avāhyam

　　（アマートラㇺ　アナンタラ　アヴァーヤㇺ）

　　　ya tad aśnāti kiñcana na tadaśnāti kiñcana

　　（ヤ　タッド　アシュナーティ　キンチャナ　ナ　タダシュナーティ　キンチャナ）

句の意味は「ブラフマンは粗大なものではなく、精妙なものでもありません。ブラフマンは短くもなく、長くもありません。ブラフマンは赤くもないです。ブラフマンは湿気でもありません。ブラフマンは影でもありませんし、暗さでもありません。ブラフマンはアーカーシャ、例えば、空でもありません。ブラフマンは無執着です。ブラフマンには味もありませんし、匂いもありません。ブラフマンには眼もなく、耳もありません。ブラフマンにのど（発話器官）はありません。ブラフマンには心もありません。ブラフマンは輝いてもいません。ブラフマンには生命エネルギーもありません。ブラフマンには顔もありません。ブラフマンははかることができません。ブラフマンには中もありませんし、外もありません」です。

それでブラフマンのどのようなイメージが出ますか。Nirvishesha（ニルヴィシェーシャ）、Nirguna（ニルグナ）、Nirupādhika（ニルパーディカ）ですね。それが面白いです。ウパニシャッドの中に両方のアイデアがあります。

≪「非二元論」、「限定された非二元論」、「二元論」≫

インドの哲学者の間でいつも、「非二元論」的な哲学が正しいか、「二元論」的な哲学が正しいかのついてたくさんの論争があります。ヴェーダーンタ哲学の或る一派はウパニシャッドの言うことはすべて（「すべて」は大事なポイントです）「非二元論」（Advaita（アドヴァイタ））的であると考えます。

しかし、別の一派はウパニシャッドの言うことはすべて「限定された非二元論」的であると考えます。「非二元論」的ですが限定（条件）付きです。

別の一派はウパニシャッドの言うことはすべて「二元論」的であると考えます。例えば、ブラフマンはNirvishesha、Nirguna、Nirupādhikaですが、それだけではなく、ブラフマンはSavishesha（サヴィシェーシャ）、Saguna（サグナ）、Sopadhika（ソパディカ）です。その関係で「二元論」的考えが出ています。

その関係で宇宙も出ます。宇宙の中には生き物がありますが宇宙の中で一番大事な部分は人間です。**人間の魂とブラフマンは別々というのが「二元論」的な哲学者の考えです。**

**「限定された非二元論」的な哲学者の考えでは、人間の魂はブラフマンの一部分です。**

**「非二元論」的な哲学者の考えでは、人間の魂とブラフマンは別々に見えますけれども、本当は一つの存在です。**別々に見えるのは無知の影響のためです。本当は同じものです。そしてブラフマンだけがいます。人間、宇宙などの別の存在は何もないです。それが「非二元論」的考えです。

ブラフマンも正しい、宇宙も正しい、幻ではないという考えが「二元論」的な考えです。そしてそれらはみな別々であると考えます。「非二元論」的な考えでは、それらは別々に見えますけれども本当は一つの存在だけがあります。それがブラフマンです。

そのように意見がとても違いますので常に論争があります。例えば、或る哲学者の考えでは、ウパニシャッドで言っていることはすべて、Nirvishesha、Nirguna、Nirupādhikaブラフマンだけであり、それ以外何もありません。それが「非二元論」的な哲学者、例えば、シャンカラーチャーリヤの考えです。

「限定された非二元論」的な哲学者（例えば、ラーマーヌジャ）の考えでは、ブラフマンの一部分が宇宙と人間です。「二元論」的な考えでは、ブラフマンも正しい、宇宙も正しい、人間も正しいです。それだけではなく、みな別々という考えです。

ウパニシャッドの中には両方のアイデアがあります。ブラフマンの二つの姿が入っています。すなわち、Nirvishesha、Nirguna、Nirupādhikaの姿とSavishesha、Saguna、Sopadhikaの姿です。

ブラフマンについてこの二つの姿（一つは性質がなく限定されたものでもないという姿、もう一つは性質があり時間と空間で限定されているという姿）が両方とも正しかったら矛盾のようではないですか。そして「非二元論」的に考えるのも正しく、「二元論」的に考えるのも正しいというのは矛盾ではないですか。

それは「矛盾ではない」です。それはできます。

我々の或る心の状態のとき「非二元論」的な考えが正しいと考えることができます。別の心の状態のとき「二元論」的な考えが正しいと考えることができます。それはどのような見方でブラフマンを見ているからなのでしょうか。見方を変えますと結論は別々になります。

我々の心は身体のレベルで存在しているときがあります。また、我々の心は魂と身体のレベルで存在しているときがあります。そして我々の心は魂のレベルだけで存在しているときがあります。

我々は「私は身体」という考えがとても強いです。求道者は「私は身体です」という身体意識がとても強いときがありますが、例えば、深い瞑想のときに「私は身体ですけれども私の魂もあります」という理解ができます。

「魂」のことをずっと考えますと身体意識は減っていきます。その結果、「私は魂」、「私は身体」と両方が私の存在であるという考えが出ます。**サマーディに入りますと身体意識は全部無くなります。**そのとき私は「魂」だけです。

このように、同じ私ですが**３つの見方**ができます。身体意識がとても強いときは、私の意識、私の見方は身体意識だけです。「魂」の瞑想が少しできている人は、私の中に「魂」と身体・肉体が合わせてあるという見方です。瞑想が少しできたら、私には身体もありますけれど私には「魂」もあります、という理解ができます。

瞑想がもっと上がりもっと進みますとサマーディに入ります。そのとき身体意識は全部無くなります。そのときは「魂意識」だけになります。私は「魂」だけの状態、サマーディはその状態です。そのとき「私は魂」の見方だけになります。

瞑想しないとても世俗的な人の見方はいつも「私は身体」、「肉体的な体が私」です。それが普通でしょ。世俗的な普通の９９％の人の見方はそれです。「魂が私」という考えは全然ありません。

求道者はけっこう瞑想していますし、抑制しています。しかし、まだサマーディに入っていないです。その種類の人は「私は身体ですけれども私には魂もある」と理解できています。そして最終的にサマーディに入りますと、そのとき身体意識は全くなくなって「魂意識」だけになります。見方は「私は魂」だけになります。

信者でも身体意識が強いときがあります。そのとき、神と私（信者）は別々です。なぜなら、私は肉体であり「時間と空間で限定された存在」ですから神と私は別と考えます。そのときは、「二元論」的な哲学が正しいという考えが出ます。

同じ信者が、心が少し身体から離れて「私は身体ですけれども私に魂もあります」という考えが出るとき、「神様、私はあなたの一部分です」という考えが出ます。神様の本性は意識であり、私も意識です。魂が意識ですから。そのとき、「限定された非二元論的」考えが出ます。

もしその信者がサマーディに入りますと肉体的考えは全然なくなります。意識の見方だけが出ます。神様は意識です。神様と私は一緒です。その考えが出ます。そのとき、「非二元論」的な考えが正しい、という見方が出ます。

すると、同じ人で３つの見方が出る可能性があります。３つの見方で３つの哲学は正しいという考えも出ます。

それに関連しますが、叙事詩「ラーマーヤナ」（主人公はラーマ（チャンドラ））の中にとても高いレベルの神様の信者ハヌマーンが出てきます。猿の信者ですね。ハヌマーンは言いました、「ラーマ、師よ。私は身体、肉体という考えが出るとき、あなたは師で私は召使です。私の身体とあなたの身体は違います。もし、別のとき、私は身体もありますけれど私は魂、その考えが出ますと、私はあなたの一部分と考えます。或るとき、私は身体意識が全部無くなり、意識だけの状態に入ります。そのとき、あなたと私は一緒と考えます」（「ラーマクリシュナの福音」（日本ヴェーダーンタ協会発行）p.36参照）

「あなたと私は一緒」という考え方は「非二元論」的です。信者と神は別々ではない。同じ存在が信者になりました。

３つの見方によって３つの哲学が正しいです。それが結論です。

これでウパニシャッドからの引用句の説明は全部終わり（プリントの３頁の⑱句以降は割愛になります）、全体的なイントロダクションの紹介が済みました。

次回（12月17日（土））からカタ・ウパニシャッドが始まります。

以上